短 報

男性乳腺乳頭部皮膚に発生した
Clear cell hidradenoma の 1 例

東邦大学病院病理

小林 照明 三宅 洋子 品川美和子 前田 陽子
辻本 志朗 三浦 妙太

I. はじめに

Clear cell hidradenoma は頭部・顔面・胸部・腹部などの真皮内に好発する、数 mm より数 cm 大の良性腫瘍である。通常、皮膚腫瘍は細胞診の対象となることが少ないとみえ、本疾患の細胞学的特徴に関する文献報告例は、著者の知る限り見当たらない。われわれは、男性乳腺乳頭部皮膚に発生した clear cell hidradenoma の 1 例を経験したので、その乳頭部分泌物細胞診所見を中心に報告する。

II. 症 例

患 者：63 歳，男性

既往歴：特記すべきことなし

現病歴：左乳房乳頭部よりの血性分泌物の出現を主訴として当病院を受診する。左乳頭下方やや内側に母指頭大の腫瘤を触知し、圧迫にて乳頭より血性分泌物を認めた。臨床的に女性化乳房や癌を疑い、分泌物細胞診が行われ、その結果乳腺病変で良性腫瘍が疑われた。当外科にて乳頭を含めた腫瘍の摘出手術が行われた。

分泌物塗抹細胞所見：乳頭からの血性分泌物をスライドガラスに塗抹し、Pap. 染色とギムザ染色を行った。背景は血性で、軽度重積する 30 個以下の細胞からなる結合性の強い集塊を少数認めた。核は類円形、ほぼ同大で、小型核小体を 1~2 個有し、クロマチンは細顆粒状で均等に分布していた。細胞質はライトグリーンに淡染していた（写真 1）。

摘出腫瘍肉眼所見：左乳房乳頭直下に黒褐色の内容物を貯留する 2.5×3×3 cm 大の嚢胞があり、そのうちに 0.7×0.4×0.4 cm の乳頭状腫瘍を認めた。

組織学的所見：乳頭部真皮内に発生した乳頭状腫瘍は大きく 2 種類の細胞から構成されていた（写真 2 a）。一つは、明るい細胞質を有する多角の細胞で、環状に配列し、硝子化した間質がこれを囲んでいた。また環状構造内にも硝子様物質が存在していた（写真 2 b）。もう一つの細胞は、細胞質全体が明るく抜けた大型多角形の、核偏在性の clear cell であった（写真 2 c）。そしてこれら 2 種類の細胞間には移行像がみら

写真 1 分泌物塗抹細胞像。類円形でほぼ同大の核が軽度重積する細胞集塊がみられる（Pap. 染色，対物×40）

Clear cell hidradenoma of the male breast nipple

Teruaki KOBAYASHI, C.T., I.A.C., Yoko MIYAKE, C.T., I.A.C., Miwako SHINAGAWA, C.T., I.A.C., Yoko MAEDA, C.T., I.A.C., Shirou TSUJIMOTO, M.D., Myota MIURA, M.D.

Department of Pathology, Omori Hospital Toho University

論文別刷請求先 ☎ 143 東京都大田区大森西 6 の 11 の 1 東邦大学大森病院病理 小林照明

平成 6 年 1 月 5 日受付

平成 6 年 4 月 22 日受理

写真 2 組織像。a: 乳頭部真皮内に発生した乳頭状腫瘍 (H-E 染色, 対物×3.3), b: 環状配列する adenomatous な細胞 (H-E 染色, 対物×20), c: clear cell の細胞 (H-E 染色, 対物×20)

れた。また腫瘍の茎部は乳腺組織の乳管に連続していた。腺腔形成があり、断頭分泌像がみられた。PAS 染色は両者の腺腔内分泌物に陽性であった。以上の所見より、環状配列する adenomatous な部分と、clear cell の部分が混在した clear cell hidradenoma と診断した。

III. 考 察

乳腺乳頭部を侵す良性病変には、乳頭部腺腫、乳管内乳頭腫、乳腺症、線維腺腫、乳管拡張症、慢性乳輪

下膿瘍などが知られている。また男性では最も頻度の高い乳腺疾患として女性化乳房がある。一般に、これらの疾患は症例により乳頭分泌物がなかったり、細胞量もさまざまである。そして clear cell hidradenoma とは、核異型に乏しい共通性がみられ組織型の推定は困難であった。特に乳頭部腺腫とは、細胞像のみならず肉眼所見でも類似し、鑑別が困難であった。一方、clear cell hidradenoma の細胞像においては、細胞間の結合性の低下やクロマチンの増量がみられず、浸潤性乳癌や Paget 病との鑑別は容易である。

Clear cell hidradenoma は組織学的に環状配列をする腺様細胞、塊状集団を作る充実細胞、清澄細胞の混在するものであり¹⁾、発生由来としては Hashimoto ら²⁾、O'Hara ら³⁾は酵素組織学的あるいは電顕的研究によってエクリン汗器官由来であるという。そして、Finck ら⁴⁾は、乳腺原発 clear cell hidradenoma を組織学的に検討した結果、エクリン腺とアポクリン腺の発生起源は同一の予備細胞から分化していることより、アポクリン腺からも clear cell hidradenoma の出現がみられると述べている。われわれの症例も乳腺乳管の連続性がみられることより、アポクリン腺からの発生も考えられた。ちなみに、本疾患には、その組織学的特徴から、同義語として nodular hidradenoma, solid-cystic hidradenoma などの名称が用いられている。

文 献

- 1) Kersting, D.W.: Clear cell hidradenoma, Arch. Dermatol., 87: 323~333, 1963.
- 2) Hashimoto, K, D.I., Bella, R.J., Lever, W.F.: Clear cell hidradenoma, Histological and electron microscopic study, Arch. Dermatol., 96: 18~38, 1967.
- 3) O'Hara, B.W.: Eccrine sweat gland adenoma of clear cell type, Cancer, 19: 1438~1450, 1966.
- 4) Finck, F.M., Sghwinn, C. and Keasbey, L.E.: Clear cell hidradenoma of the breast, Cancer, 22: 125~135, 1968.